

だれもが食を分かち合える社会のために

# フードバンク山梨 第15回 定期総会



日時:2023年5月24日(水)13:30~

会場:山梨フードバンクセンター



## 認定NPO法人フードバンク山梨 第15回定期総会

### 次 第

1. 開会の言葉
2. 理事長挨拶
3. 議長選任
4. 書記及び議事録署名人の選出
5. 議案審議

#### 第 1 号議案

2022 年度事業活動報告・活動決算報告・  
監査報告承認の件

#### 第 2 号議案

監事選任の件

#### 6. 報告事項

(1) 2023 年度事業活動計画及び予算 報告の件

(2) 第8期理事会役員 報告の件

#### 7. 議長解任

#### 8. 閉会



## 皆様と共に歩んだ 2022 年度を終えて



フードバンク山梨 理事長 米山けい子

今回の総会では、皆様と共に歩んだ 2022 年度を振り返り、感謝とともに報告させていただきます。

今年度は、未曾有の社会変化や物価高騰の中で、支援する世帯や子どもたちの生活がますます厳しくなる中、私たちの活動は迅速に行うことができました。これは、多くの皆様の温かいご支援とご協力のおかげと、心から感謝しています。

当法人が支援する世帯の状況は、毎年厳しさを増しています。コロナ禍前の年収が 150 万円未満の世帯が多いこと、非正規雇用の比率が高いこと、そして今回の調査で給料が変わらないと答えた人が多数を占めることなどが示唆されています。

特に子どもたちに関しては、学校給食がない休暇期間中の食料支援が過去最高になり、乳幼児のいる世帯への支援も増加しています。こうした厳しい現実を踏まえ、私たちは食の支援を契機とした親子相談支援も実施し、より多くの方々に支援を届けられるよう努めました。

一方、未曾有の物価高騰の中でも、皆様からの食品の寄贈は過去最高の取扱量となり、フードバンクセンターの建設のための寄付活動にも、多くの個人や法人からのご支援をいただき、新しいセンターを完成させることができました。このようなご支援には、心から感謝申し上げます。

私たちは、今後も応援していただく皆様と共に、支援が必要な方々に届けられるような地域づくりを目指し、取り組んでまいります。

引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 第1号議案

### 2022年度 事業活動報告及び予算の件

持続可能な開発目標 (SDGs) に則った活動を推進しました。



\*SDGs とは、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、誰も置き去りにしない取り組み。2030年までに持続可能な世界を実現するための17の国際目標。

#### フードバンクに関する目標





## 1. 食料支援を通して貧困をなくす活動

年間を通じて、のべ 10,157 世帯に支援を行いました。

### (1) 物価高騰やコロナ禍に伴う食料支援活動の充実

物価高騰やコロナ禍により経済的に影響を受けた世帯（失業者・大学生・留学生・ひとり親世帯）延べ **2,384** 世帯に対し支援を実施しました。  
新たに、保育園と連携をした食料支援を開始しました。

#### ① 緊急食料支援実績

回数	実施日	世帯数	備考
第1弾 (手渡し)	9月17日	235	<b>第8回つながるスマイルプロジェクト</b> 地域フードバンク7団体と連携。失業者・大学生・留学生が対象。
第2弾 (宅配)	12月20日 ~28日	1,904 (12月のフードバンクこども支援プロジェクトを含む)	山梨県の生活困窮世帯緊急食料支援事業費補助金により、物価高騰やコロナ禍の長期化などによる経済的影響を受けた世帯を対象に実施。
第3弾 (手渡し)	2月11日	108	<b>第9回つながるスマイルプロジェクト</b> 地域フードバンク7団体と連携。失業者・大学生・留学生が対象。
第4弾 (手渡し)	3月24・25日	135	<b>第10回つながるスマイルプロジェクト</b> 山梨フードバンクセンターで食品を配布。失業者・大学生・留学生が対象。
第5弾 (手渡し)	3月24日	2	南アルプス市内の保育園、2園と連携。
合計		2,384	





## ②第8回～第10回 つながるスマイルプロジェクト

物価高騰やコロナ禍により経済的に影響を受けた世帯を支援するため、緊急的な食料支援「つながるスマイルプロジェクト」を8つの地域フードバンク団体と連携して実施し、延べ478世帯を支援しました。

※地域フードバンク団体については「5. パートナーシップ」を参照



ドライブスルー方式で食品をお渡し



お子さんが喜ぶ食品も種類豊富に用意

## ③生活困窮世帯緊急食料支援事業の実施

山梨県から委託され、当法人が把握している1,904の生活困窮世帯に、年末年始を安心して暮らせるよう、年越し・年始用の食料を宅配で届けました。緊急的な支援だったため、不足する食品は購入しました。



支援した食品の例

お困りのことやご相談など自由にお書き下さい

食品の支援、ありがとうございます。  
野菜ジュースとお菓子などはとても助かったです。自分は外国人留学生で、コロナの原因でバイトができなくて、生活費もぎりぎりです。日本の野菜が高くて、あまり買わないです。野菜ジュースをいただき、ありがとうございます。  
日本にいる時間は、あたたかい真心を感じました。ありがとうございます。

## ④保育園プロジェクトの開始

保育園に通う乳幼児のいる世帯が物価高騰やコロナ禍の影響で生活に困窮していることを受けて、南アルプス市内の保育園2園と連携しミルク・おむつ・食品の支援を実施しました。申請数が想定していた数より少なく、今後は、情報提供や受け取りやすい仕組みづくりが課題となりました。



希望世帯にはおむつも配布



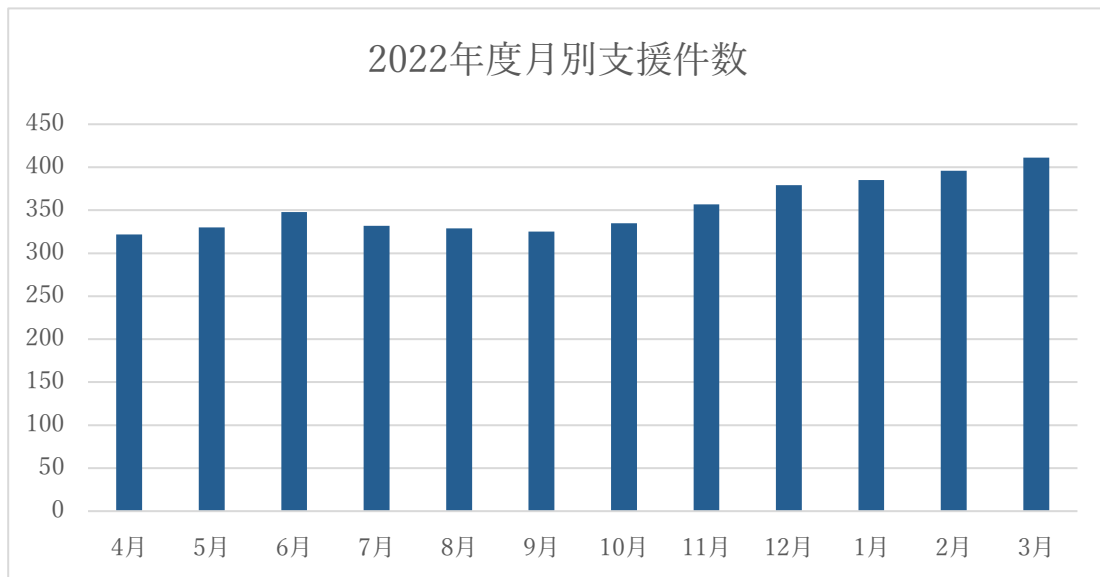
## (2)「食のセーフティーネット事業」の充実

行政や社会福祉協議会と連携し、定期的な食料支援として延べ **4,249 件、約 41 トン**の食品を宅配しました。  
また、緊急的に食料が必要な方のために食品を手渡し・宅配便でお届けした緊急食料支援は、合計 **255 件、約 24 トン**実施しました。

### ① 行政と連携した食を必要とする方への支援

10 市町(南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・上野原市・昭和町・市川三郷町・身延町・富士川町)の行政・社協から依頼を受けた世帯に食料支援を実施。

1ヶ月に2回(第2・4週)最大3ヵ月間、自立をサポートするための食品の提供を行いました。合計4,249件、重量は約41トンとなりました。



年度当初に比べて全体の対応件数は増加。行政担当者からは、月を追うごとに生活困窮を訴える声が増える中、自立に向けた支援活動において食料提供を切り口としたコミュニケーションは非常に有効であると評価されています。今後も信頼関係を強め、くらしの基盤づくりに貢献します。

### ② コミュニケーションツールとしての『ふーちゃん通信』の進化

「双方向コミュニケーション」をテーマに、利用者の気づきや思いを募集しました。花や空、「今年の漢字」など身近な話題を投げかけ、返信は同封するハガキのほか、QR コードを載せてスマートフォンからも回答できるよう工夫しました。寄せられた声は次号で掲載するなど、あたたかいつながりを全体に広げられるよう配慮しました。



山梨英和中学・高等学校より歳時に合わせた手作りのモチーフをいただき、食品と共にお届けし、喜びの声もいただきました。



山梨英和中学・高等学校  
YWCA ひまわり部様から歳時ごとに  
寄せられる折り紙のモチーフ

### ③緊急食料支援の実施

11市町（南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・北杜市・上野原市・昭和町・市川三郷町・身延町・富士川町）と、県内外にお住まいの方から食品を求める声に対応した当法人独自の支援で合計 76 回、約 0.83 トン実施しました。

### ④情報管理のデジタル化と作業改善の推進

食品配送予定はデータベースシステム（セールスフォース）に入力し、申請元との連絡内容も記載。支援者の情報を一元管理し、スムーズな作業環境整備に努めました。





### (3)「食の支援を契機とした、一人親家庭の総合的支援&課題解決力育成事業」独立行政法人福祉医療機構(WAM)事業

フードバンク山梨の食料支援利用世帯の多くは、からだや心の健康、親の就労、子どもの就学などの課題を抱えているため、行政機関だけでは対処が難しい状況です。ひとり親家庭や生活困難者に対し、親子との面談や諸機関との連携、その後の支援等を通じて、課題の解決や改善を目指しました。

#### ①面談や食料支援等の量的支援の実施

##### ■面談の実施

対象とした 20 世帯に対し、子どもには 23 回、保護者には 336 回、延べ 359 回の面談を実施。

##### ■食料支援

月に1度お米や乾麺、お菓子などおよそ12kg の食品を延べ 104 回、約 1.24 トン提供しました。保護者からは、支援を受けることで得られる他者との繋がりや生活の安心感が語られました。

- ・「日頃買ってあげられないお菓子があって、子どもが喜ぶ姿が嬉しい」
- ・「なんでも物価が高くなっていて大変だが、食べ物があればなんとかなります」
- ・「お陰さまで生きられています。本当に感謝しかありません」 など

##### ■他機関と連携した支援者会議の開催

延べ 57 回実施。支援した家庭は困難な課題をいくつも抱えているケースが多く、諸機関、諸団体が連携することで、課題解決に向けての方向性を明確にしました。

#### ②課題に着目した質的支援の実施

##### ■「課題解決型」の相談支援

対象の10世帯に対し、各家庭が抱えている課題解決を目指した質的支援を実施しました。主に申請など手続きに同行する、「課題解決型」の相談支援を行いました。すべての課題を一度に解決することは容易ではありませんが、相談員が寄り添った支援をしていくことで、相談者自身の不安感や喪失感を解消していくことも大きな役割となっていました。

##### ■「子どもに届く支援」の難しさが浮き彫りに

本事業のように、子どもへの直接的な支援を目標の1つに掲げていても、保護者や家庭の抱える課題が大きいため、直接的な子どもへの支援には手が届きにくいことも明らかになりました。



### ③子どもたちの将来の夢を支援する職場体験の実施

#### ■5名の中学生が参加した「職場体験会」

フードバンク山梨での仕事を体験してもらう職場体験を実施し、食品の賞味期限チェックの作業を体験してもらいました。

- ・「今日初めてフードバンクの仕事を通して働いている人の苦勞がわかった」
  - ・「食品の大切さを改めて感じた」
  - ・「自分たちが大人になった時に少しでも恩返しができるようなことをしたい」
- 等の感想が寄せられました。

フードバンク山梨のお仕事を体験してみませんか

夏休みにフードバンク山梨の職場体験を行います。将来の夢を考える一つの体験として参加してみませんか☺

日時: 令和4年8月8日(月)  
時間: 10:00~12:00  
場所: フードバンク山梨 小笠原倉庫(南アルプス市小笠原477-6)

対象: 相談支援事業に参加している小・中・高生  
内容: 皆さまからご寄付いただいた食品の賞味期限チェックなど。  
持ち物: 飲み物(倉庫内が大変暑くなるので多めに持ってきてください。)、汗拭きタオル等の暑さ対策、動きやすい服装

※希望者には学校に提出する「ボランティア証明書」を発行します。  
※送迎は保護者にお願ひしますが、無理な場合は相談員にご相談ください。  
申し込み先: フードバンク山梨 055-298-4844  
相談員の連絡先へ直接ご連絡ください(無料)☺



賞味期限をチェックする作業の様子

### ④事業報告会の実施

連携団体を含めた20名が参加し、事業の報告会を実施しました。困難な課題を抱えているケースの事例検討を行い、各団体と意見を交換し今後の相談支援に繋げる良い機会となりました。



### (4) ウクライナの方々の支援

戦禍から避難された方々に行政・他団体・企業等と連携し手厚い支援となりました。

- ・4/27 山梨大学での「ウクライナ避難者への支援について」の記者会見
- ・大学生2名を山梨大学の医学部・国際交流センターで受入
- ・住居確保の手続きの補助(5名甲斐市・1名甲府市・1名中央市)
- ・引越し等の準備・手伝い・食料支援・クオカードをお渡し
- ・ボランティア NPO センターから電化製品・株式会社中部から自転車と通勤定期の支援を受ける
- ・ソフトバンクからのスマートフォン無償貸し出しのサポート
- ・日本財団からの支援金申請手続きをサポート



## (5) フードバンクこども支援プロジェクト

長期休暇の子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートする「フードバンクこども支援プロジェクト」では、物価高騰やコロナ禍の影響で対象世帯が**延べ 2,663 世帯**と昨年度より **1.2 倍増加**しました。

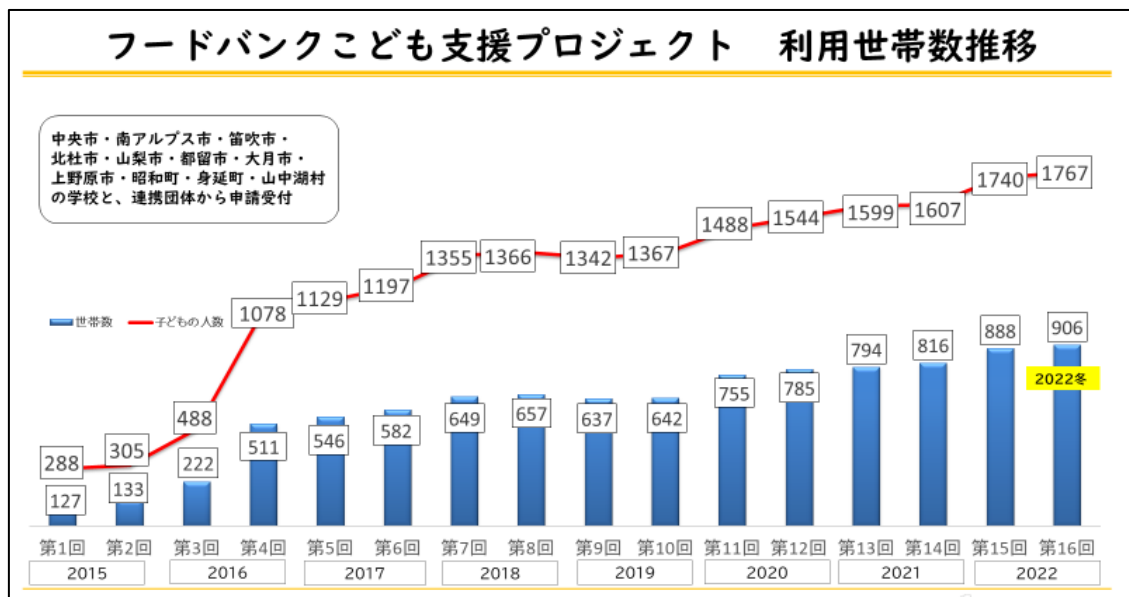
小林製菓株式会社と「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進しました。

### ① 11市町村との連携

南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・北杜市・大月市・上野原市・昭和町・身延町・山中湖村と連携し学校や福祉課から申請書の配布を行いました。

### ② 支援対象

- ・準要保護世帯（就学援助などを受給している世帯）
- ・行政や社会福祉協議会から申請があった18歳以下の子どもがいる世帯



### ③ 夏のフードバンクこども支援プロジェクト

888 世帯に支援を実施。

■日用品や衛生用品など生活に役立つ支援  
食品と共に、企業提供品を中心に、使用頻度の高い物品をお送りしました。

■「親子で過ごす時間」も提供

夏休み中に親子で料理をする時間のプレゼントとして「フルーツポンチ」用の食品を組み合わせました。返信ハガキで喜びの声が届きました。



日用品も一緒に箱詰め





- ・「小さな子どもがいる家庭には、フルーツポンチセットはとても素敵なアイデアだと思います」
- ・「フルーツポンチ、子どもが作ってくれました。楽しい1日を過ごせました」
- ・「子どもたちがフルーツポンチに飛びつき楽しい夏休みを過ごすことができました」



箱詰め作業の様子

#### ④冬のフードバンク子ども支援プロジェクト

906世帯に支援し、過去最多の利用者数となりました。

##### ■「体験」の機会創出

クリスマスプレゼントとしてグルメカード(子ども一人につき1,000円分)を購入しました。

経済的に困窮する家庭で育つ子どもは、外食をはじめ多様な「体験」が失われることが多いため、そうした機会の創出につながる企画を実施しました。



食品と共に食事券をプレゼント

##### ■利用者から多くの声

- ・「食事券は予想していなかったので久しぶりに外食しようかと思いました」
- ・「子どもたちもとても嬉しがっています。こんな状態になり、外食なんてできない私たちにこんなステキな券をいただきありがとうございます」



サンタになりきって箱詰め

#### ⑤支援申請システムの構築

申請者増加に対応するため情報管理のシステム構築を検討しましたが、「乳幼児応援プロジェクト」「つながるスマイルプロジェクト」にとどまりました。




「フードバンク子ども支援プロジェクト」支援世帯から届いた声

今回も沢山の商品を頂き、本当にありがとうございます。  
 毎回箱をあけると子供の目はキラキラして今日は何が  
 入っているのかな？めと嬉しそうに一番に箱を  
 開封しています。1人の子供も大きくなって  
 食費がかかるのはもちろん、それ以外にも日常の  
 会話も思春期になると減ってきます。その中でも  
 毎回届くフードバンクからの箱を開封している時、  
 ひとの会話のネタが増えているのも事実です。  
 食品などを頂いているのも当然前ではなかったよ、  
 その裏側には働きかける企業さんがいて、  
 箱をあけて梱包などしてくれる方がいてくれるんですよ。  
 と毎度その話をします。是非機会があれば  
 私達もそのお手伝いをさせて頂きたいです。  
 いつもしらも、ありがとうございます。皆様、感謝です。

ひさびさに家に食品が増えました。ありがとうございます。  
 どんどん値上げなどで高くなるばかりで、  
 ども、子供のオムツ、祖父のオムツ、ペットなど、使うもの  
 は買わないといけません。でも収入が増えて来るわけ  
 でもないし、お金はかかりかかるとばかりで、  
 ガソリンも高くなりました。  
 子供のものもカモンしてもらっている中、2人にお菓子が  
 届き、とてもうれしかったです。  
 本当にありがとうございます。  
 お米大切に食べさせていたいただきます。  
 暑期中、私達の為に、ありがとうございます。  
 お身体には十分気をつけてください。  
 本当にありがとうございます。

今年も素敵方便が届きました。  
 育ち盛りの子供が居てこれから冬休  
 に入ると時期なので大変目かかっています。  
 多くの方々が携わってくれている事、多くの  
 食料や日用品に本当に感謝の気持ち  
 で一杯です。  
 ーっっ大感謝に頂きたいと思っております。  
 グルメカードを利用してイベントを楽しみ  
 たいと思っております。  
 コロナ禍の中、ホッと心が温まり  
 ます。  
 苦しい状況の中、元気を分けて下さる  
 本当にありがとうございます。

いつも大変お世話になっております。今回  
 も箱いっぱいのご支援を本当にありがとう  
 ございます。同封されていた「応援するのみ」  
 のチラシも、子どもに見せてあげて、毎  
 日家族は不思議がって聞かなくていいよだ  
 けど、こんなにたくさんの人達が助けてく  
 れて、気にかけてくれているんですよ、と伝  
 えます。本当にありがとうございます。  
 おかしやゼリー、ジュースなどが入っていて、  
 いつもどいてるけど、おかしは、  
 おかしやジュースの(おかし)は、  
 うれしいです。ありがとうございます。  


いつも食料支援ありがとうございます。  
 毎回、上手に箱詰めされてて今回もセ  
 ンカードも入っていて嬉しかったです。  
 我が家は中学生、高校生の食費が  
 の子供がいるので、ほんとに食料品助か  
 っています。毎回、みんなでダンボールを  
 あけるの楽しみにしています。  
 我が家は色々な人達に支えられて  
 生活しているんだと毎日、思っています。  
 感謝です。ほんとにありがとうございます。

フードバンク様からの贈り物を  
 こどもがいつも楽しみにするよう  
 になりました。親の負担や心配  
 事までも支えていただきながら、  
 愛までもいつもいただいている気  
 持ちです。本当に心あたたまる  
 取組を有難うございます。





## (6) 乳幼児応援プロジェクト

乳幼児がいる世帯に年2回ミルク・おむつ・食品を無償で配布し、**延べ 397 世帯**への支援となり過去最多の支援世帯数となりました

### ① 支援対象世帯

未就学児を育て、以下の状況にある世帯を対象として取り組みました。

- ・児童扶養手当を受給している
- ・フードバンクこども支援プロジェクトを利用している
- ・各市役所の行政窓口や社会福祉協議会からの申請を受けた世帯

Google フォームを利用して申し込みフォームを準備し、チラシに掲載した QR コードからアクセスすることで手軽に申し込みできるしくみを確立しました。

### ② 春の乳幼児応援プロジェクト

170 世帯におむつやミルクを含む食品箱を発送または手渡しました。



ボランティアの力を借りて箱詰め



食品と日用品を直接お渡し



### ③ 秋の乳幼児応援プロジェクト

227世帯が利用し、1回目の支援に比べ57件増で過去最多となりました。

■405 本の「牛乳」を各家庭へ

山梨県農政部と連携し牛乳を配布しました。

配合飼料等の価格高騰により、厳しい経営を強いられている県内畜産農家を支援するため、県が牛乳を買い上げ畜産農家の経営を支援する「牛乳緊急支援事業」の一環で、フードバンク山梨を利用している世帯へ牛乳を提供しました。





「乳幼児応援プロジェクト」支援世帯から届いた声

フードバンクのみなさんへおかしとかをらば  
 くれとありかとうござります。おかしとかを  
 いっぱいください。  
 フードバンクのみなさんへおかしやしょく  
 りょう品なをいをくさんかざりあり  
 かとうござります。これからもよろし  
 くおねがいします。

いつも、ありがとうござります。  
 お米、たすかります。

何度もフードバンクからの支援を受けています。本当  
 にいつも助かっています！ありがとうござります。いつか  
 支援する側になりたいです。

小さい子どもがいて指定時間で重く  
 のは大変なので助かりました。  
 外出のついでに寄れるので無駄もなく  
 人との接触もないので人目も気にせず  
 気も楽でした。いろいろ受取方法を  
 考えていただきありがとうござります。  
 まだまだコロナの感染も広がって  
 保育園が休園になったり  
 思いうるに働けない日も多いです。  
 食品や日用品は大変助かります。  
 与えられる側ですが、  
 いつかは与える側になりたいです。  
 玉ノも人の気持ちも大切にします。  
 無事に新学期を迎えられました。

「これだけの食品や洗剤、けししょう品を  
 いっぱいありがとうございます。  
 保育園におかえにいき、おねがい  
 物もいけず、家には米がびわったな...  
 と思ったのでお、帰って、食品  
 が届き、おかしやしょう品もあり、安心  
 したと驚いたのか...。本当にありがと  
 うござりました。箱にパンパンに詰ま  
 り持ちはしゃかりと伝わり、本当に  
 「まだおねがわれる!!」と思えました。

ありがとう

6歳児

フードバンクの皆さま、こんにちは。  
 利用させていただくのが2回目になるのですが、  
 今回も前回の時と同様、胸が熱く、涙が  
 出たくらい嬉しく、感謝の気持ちでいっぱい  
 になりました。洗剤やシャンプーなどの消耗品や  
 牛乳・お米などの日配品、毎日使う消費する  
 もので、3人の子供がおり、我が家にとり  
 大変、ありがたかったです。  
 本当に、本当にどうもありがとうござります。  
 皆さまの目に見えないお取組ですが、  
 お気持ちを大切にしながら生活し  
 頑張っていくと思っております。

④地域フードバンクとの連携強化

支援を求める方がより身近で食料支援を利用できる体制づくりとして、県内に8か所  
 ある地域フードバンクと連携をして食品配布を実施しました。  
 地域フードバンクで把握している気になる家庭について、各支援の情報提供を行うこと  
 で食料支援に繋がるケースもありました。

⑤つながるロッカープロジェクト

日中は仕事等で食品の受け取りが難しい世帯に、休日  
 や夜間にも食品が受け取れる方法として、あらかじめロ  
 ッカーに食品をセットし、解除の方法を連絡するしくみを  
 確立しました。2回・9世帯の利用がありました。



敷地内に設置したロッカー



## (7) 食料支援でつながった子どもへの学習支援「ももっ子クラブ」の実施

フードバンク山梨の食料支援利用世帯の子どもたちに向けて、学習や居場所の提供などを行う「ももっ子クラブ」の事業に取り組みました

### ①子どもの学習・居場所支援教室「ももっ子クラブ」

#### ■南アルプス市で毎週土曜日午後に学習・居場所支援

フードバンク山梨から食料支援を受けている家庭で申し込みのあった子どもが参加しました。2022年度の年間実施回数は約40回、子ども延べ約200人、ボランティア延べ約200人が参加しました。



#### ■個別の学習支援

学習意欲の回復や学習習慣の定着の支援を行いました。また、有効な支援ができるよう、ボランティアとの信頼関係の構築を重要視しました。

#### ■子どもや保護者へのヒアリング

子どもからは進路や家族、学校などに関する悩みを聞きました。保護者とは子どもの課題や特性を共有し、適切な支援に役立てました。



#### ■体験活動の機会創出

ハロウィンやクリスマスにはイベント、その他、野外遊び等を実施しました。

#### ■多様な講師ボランティア

一般の方を中心に、子どもたちと年齢の近い大学生と高校生に積極的にお願いし、幅広い方々にご協力いただきました。ボランティアどうしの交流を毎回活動終了後に設け、子どもに関する意見交換や情報交換を行いました。その他、荷物の搬入出・パンの受け取り等のボランティアにもご協力いただきました。

#### ■「食」のサポートも

昼食として食べられる食品や、製パン会社からのパン、おやつ等のご寄付をお土産として毎回の活動終了後に渡しました。

### ②「えんぴつひろば」は中央市からの事業委託が終了

課題を抱えている家庭については、福祉医療機構(WAM)事業の相談支援に繋がり、引き続き支援をすることができました。





## 2.食品ロス削減と食品管理

小笠原倉庫から新センターへ移転し、より多くの食品・日用品の取扱いが可能となりました。

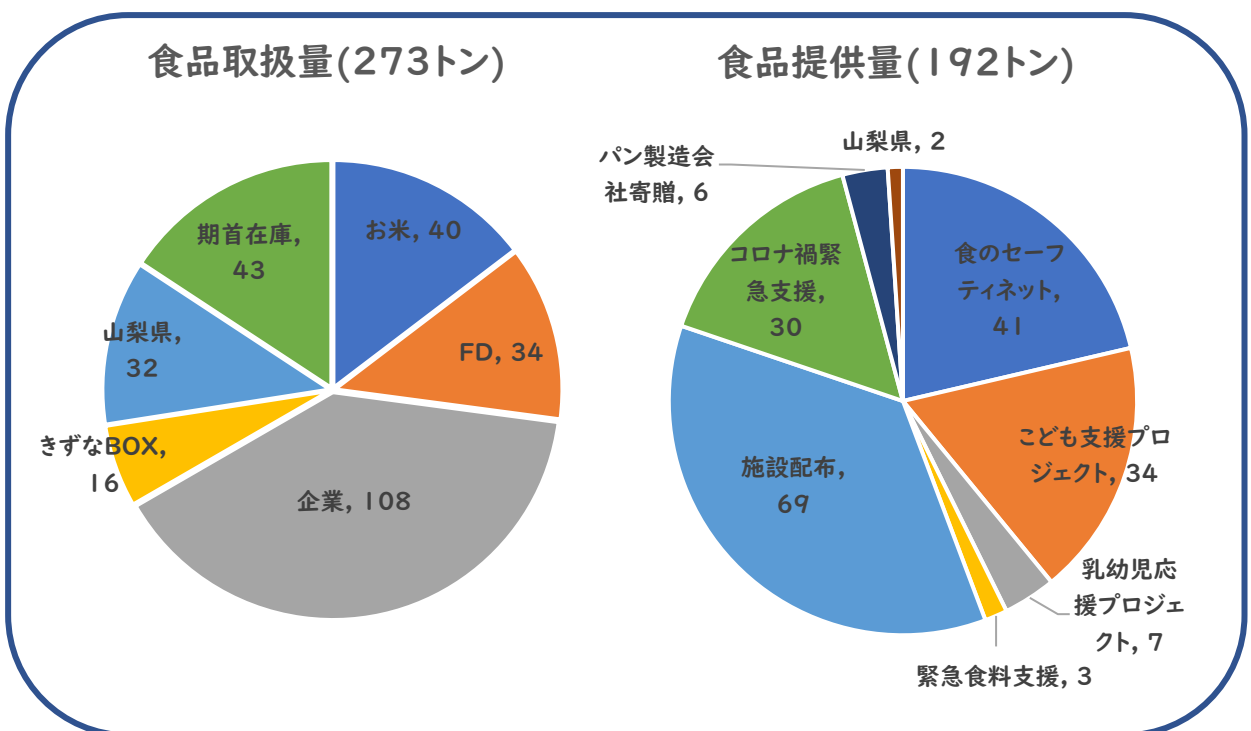


新センターでの食品取扱量が過去最高と増加しましたが、コロナ禍の状況や物価高騰の影響もあり食品提供量も過去最多となりました。

コロナ禍・物価高騰という世の中の状況もあった中で、多くの企業・団体や一般の方に多くの食品・日用品を寄贈していただきました。



### 食品取扱重量と食品提供重量



## (1) 企業・団体からの食品・日用品の収集とフードドライブの定期開催

コロナ禍における企業・団体からの余剰食品・日用品の寄贈と市民からの寄贈が増え、期首在庫量 43 トンを加え、**年間取り扱い量は 273 トン**となり**過去最高の取り扱い量**となりました。

### ①食品の収集・配布

#### ■目標を大きく上回る寄贈量

年間150トンの受け入れ目標に対し、寄贈重量は198トンとなりました。

その他取扱い食品が32トンとなり年間食品取扱重量が230トンとなりました。

食品製造企業からの過剰生産品の受け入れを行いました。また、県内企業からの新規寄贈がありました。パレット単位の大口寄贈を受け入れました。

#### ■県と連携して取り組みを推進

・県産肉や牛乳の購買増進の為に山梨県が「県産肉・牛乳緊急支援事業」を実施し、フードバンク山梨の支援世帯に配布しました。(総重量2トン)

\*山梨県産の牛乳:2022年11月・2023年2月

\*山梨県産の精肉:2023年2月

・2022年12月山梨県緊急支援事業を実施。30トンの食品を支援物資として購入し取り扱いました。

### ②フードドライブの取り組みを推進

・年2回フードドライブ強化月間(夏・冬)を設けました。コロナ禍の影響もあり夏のスタートイベントは中止。冬の強化月間開始を前に、SNSで広報。スタッフがハロウィンのお化けに扮し、食品寄贈を呼びかけました。

・職場単位で従業員が取り組めるように、チラシ配布等のサポートをしました。

・PTAや生徒が主体的に行なう「スクールフードドライブ」では、年間を通し50校・園の参加がありました。(夏22・冬28校・園)



スクールフードドライブの持ち込み(夏)



センターでのフードドライブ受付





### ③きずなBOX

JA 南アルプス市 A コープ・株式会社いちやまマート、2社16店舗での設置を継続し15.4トンの寄贈がありました。

### ④パンの寄贈

製パン会社から継続的に8施設へ6.9トン寄贈がありました。  
春の乳幼児応援プロジェクトでは、利用者に手渡しました。

### ⑤日用雑貨

家庭からの寄贈ではアルコール消毒液やマスクなどが多く、企業からはパレット単位で除菌シートや、洗濯洗剤等の寄贈を受けました。



企業寄付除菌シート



企業寄付乳幼児用洗たく洗剤

市民からの食品寄付		
フードドライブ	お米	39.9トン
	食品	29.2トン
	日用品	4.8トン
	スクールフードドライブ	1.1トン
きずなBOX	JA 南アルプス 2 店舗	1.8トン
	いちやまマート 14 店舗	13.5トン

製造企業からの寄贈	
食品製造企業・団体からの寄贈	102.1トン
パン製造会社からの寄贈	6トン

山梨県事業実施に関する食品取り扱い	
県産肉・牛乳緊急支援事業での取り扱い	2.1トン
山梨県緊急支援事業に関する食品の購入	30トン



## (2) 食品製造企業の寄贈・防災品の受け入れ促進

報道や HP 等を見てくださった企業・団体からの問い合わせが増えました。年間食品取扱重量 400 トンへ向け、HP や SNS での広報活動・営業活動を強め、寄贈していただける企業開拓を継続的に行います。

### ①新たな連携企業からの寄贈品



新規寄贈企業から飲料の寄贈



新規寄贈企業からお茶パックの寄贈

### ②一般企業・自治体・医療機関等からの防災品を受け入れ



防災品取扱企業より寄贈



自治体の備蓄品(保存水)寄贈

## (3) 全国フードバンク推進協議会と連携した大手企業の食品寄贈促進

全国フードバンク推進協議会と連携し、大手企業からの食品寄贈を積極的に受け入れました。大口ロットの寄贈も受け入れ、多くの利用者や登録施設・団体へ配布することができました。



フリーズドライみそ汁寄贈(大口寄贈)



チョコレートやグミ等のお菓子

**寄贈企業一覧 (22年度 61社)** ※協議会マッチング含

株式会社シャトレゼ      株式会社サンキムラヤ      ザ・ビッグ櫛形店  
やまなし大武川農場      明治ホールディングス株式会社      株式会社ナリナル  
VAPEUR      森永乳業株式会社甲府営業所      石井食品株式会社八千代工場  
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社      株式会社アルソア慧央グループ  
アサヒグループ食品株式会社      株式会社小笠  
株式会社山和食品      生活協同組合パルシステム山梨  
高岡オレンジ園      こくさいや      熊本県果実農業協同組合連合会白州工場  
ALL FOOD JAPAN 株式会社      野村ホールディングス株式会社  
公益社団法人日本監査役協会      生活協同組合ユーコープ  
小林製薬株式会社      杏林製薬株式会社  
株式会社はくばく      テラビッツ株式会社      山梨県生活協同組合連合会  
株式会社バローホールディングス      トーヨーコーケン株式会社  
株式会社藤二誠      株式会社三世コーポレーション  
一般社団法人オフィス kiyoharu      日清食品株式会社  
山梨県酪農業協同組合山梨県牛乳普及協会      株式会社三沢製麺  
丸文株式会社      カルゲン製薬株式会社      セブンイレブン山梨鳴沢店  
株式会社コロワイド      株式会社桑郷      マルコメ株式会社  
全国農業協同組合連合会      東日本旅客鉄道株式会社  
株式会社 JR 東日本クロスステーション デベロップメントカンパニー  
首都高速道路株式会社      公益社団法人日本非常食推進機構  
アジア燃料株式会社      わらべや日洋食品南アルプス工場  
株式会社モランボン      株式会社はやしや  
銀座ステファニー化粧品株式会社



## (4) 年間食品配布量は過去最多となる 192 トンに増加

様々な対象者層に向けた食料支援を実施。フードバンク山梨が中心となり、地域フードバンクと協働して取り組みを進めました。

### ① 幅広いテーマでの食料支援

山梨フードバンクセンターでの食品配布の機会も増やし、利用者に直接配布することで、より多くの物品の提供と交流の機会を創出しています。

取り組みごとの配布量	
食のセーフティーネット事業	40.8 トン
フードバンクこども支援プロジェクト	33.9 トン
乳幼児応援プロジェクト	7.4 トン
緊急食料支援	3.5 トン
施設配布	69.2 トン
コロナ禍緊急食料支援	29.6 トン
パン製造企業から 8 施設へ寄贈	6 トン
県産肉・牛乳緊急支援事業	2.1 トン
合計	192.8 トン

### ② 施設・団体への配布

#### ■ ニーズ調査を実施

確約書締結施設・団体に対し、電話や施設配布時等にヒアリングし、ニーズに合う食品を提供しました。

#### ■ 施設・団体からの要望に対応

食品希望の問い合わせも多くあり、その月に提供できる食品や日用品を提供しました。

#### ■ 冷凍食品の提供

給食を行っていて冷凍庫をお持ちの施設団体に対しては冷凍食品を提供しました。

・パントリー運用団体や、施設内でのレクリエーションを行っている施設からはお菓子や飲料の希望が多くありました。

・給食や子ども食堂を行っている施設・団体からは調味料の希望がありました。

・カップ麺やお湯で溶かすだけで食べることのできるフリーズドライみそ汁など簡単に食べられる食品は特にニーズがありました。







## (5) 新倉庫における効率的な食品管理と運用の実現

新センターへ移転し、各種設備を拡充。作業環境の整備を進め、適切な食品管理の実現を目指しました。

### ①食品の品質と衛生管理、情報管理のために

農林水産省「フードバンク活動における食品の取り扱い等に関する手引き」を管理基準とし、内容にそった管理に努めました。

### ②新たなセンターでの倉庫管理

#### ■冷凍・冷蔵品の取り扱い開始

新フードバンクセンター移転後、棚を使用した管理、冷凍庫・冷蔵庫設置に伴い冷凍・冷蔵品の取扱いが可能になりました。

#### ■精米機導入

もみや玄米の精米作業も実現しました。

#### ■適切な保管管理

小笠原倉庫・新センター共に保管スペースの確保、食品管理に努め、大口寄贈食品・FD・物品の入荷に備えました。

#### ■動力の導入で作業効率向上

フォークリフトの寄贈をいただき、狭いスペースでの食品移動が可能になりました。

### ③清潔な状態を維持するための工夫と整理整頓

#### ■整理と清潔の維持

人が多く行き来する場所の清潔を保つよう毎日の清掃を心がけました。

- ・作業終了時のモップ・ほうきがけ
- ・フォークリフトの清掃、法人車の洗車(週1回)
- ・人の手に触れる箇所の消毒 等

日用品の保管は中央市ひまわり支所も活用しました。

#### ■倉庫での食品ロス発生防止

期限チェックでの「至急使用」カゴ配置、倉庫内の食品保管位置を共有し、保管期間の可視化・定位置での保管に継続して務めました。



棚を使用しての食品管理



冷凍・冷蔵品の取扱いを実現



精米機搬入での精米作業の実現



新たなフォークリフトでの倉庫作業





### 3. 寄付活動・広報

#### (1) センター建設寄付の達成

11 月末まで寄付を受け付け、多方面・多様な方々（個人延べ 338 名、法人 98 団体）よりご支援をいただき、目標を達成することができました。

##### ①多様な方法で寄付を呼びかけ

広報での呼びかけや訪問、クラウドファンディングを利用し寄付をよびかけました。

##### ②感謝の気持ちを形に留めて

寄付者全員にお礼と報告書をお贈りしました。特に高額寄付者には芳名板を作成して新センターに掲示し、あわせて記念品もお贈りしました。



#### (2) 活動への寄付の呼びかけ(個人・企業・遺贈)

活動への寄付は、コロナ禍以降の物価高騰でさらに増加した生活に困窮する方たちの支援を呼びかけ、個人のべ 2,852 名、企業法人のべ 405 団体よりご支援をいただき、目標を達成することができました。

##### ①個人からの寄付

■引き続き広報・HP・ダイレクトメールを利用して活動を理解いただき、ご寄付を呼かけました。

■寄付チラシへは手軽にご寄付ができるよう QR コードを掲載しました。

■クレジットカードからの継続寄付だけでなく、新たな継続寄付者を増やすため Readyfor の継続寄付サイトを立ち上げました。





## ②法人からの寄付

- 県内の業績優良企業へお手紙を送り、特別法人会員への呼びかけを行いました。
- 支援をいただいている法人へは、代表者あてに直接、お礼や活動の報告を行いました。
- 協力いただいた販売店・飲食店の店頭募金箱を設置し、ご寄付を募りました。
- 自動販売機設置企業 2 社の協力で、数か所の事業所内に寄付型自動販売機を設置し、ご寄付をいただきました。

## ③遺贈寄付

- WEB ページの変更、特別な呼びかけは実施できませんでした。
- 相続財産寄付の申し出がありました。

## (3) 広報活動による認知度向上・メディア、Facebook、HP の充実

### ①引き続き多様なツールを活用し情報発信を強めました。

- ホームページ、ランディングページ(グーグルでの無料広告)
- フェイスブック・ツイッター・インスタグラム等の SNS (より多くの方にみてもらえるよう、Twitter は主にクラウドファンディングをきっかけに自動投稿機能を利用開始)
- クラウドファンディングサイト
- YouTube (クラウドファンディング関連の動画や『フードバンクからのエール』を公開)
- メールマガジン (建設のクラウドファンディング終了までのカウントダウン)
- アットプレスでのプレスリリース
- HP の一部リニューアルを実施しました。

### ②オリジナルテーマソングを創作しました。

フードバンクソング「フードバンクからのエール」をスタッフが創作し、活動ビデオや YouTube で発信しました。

## (4) ファンドレイジングに関する講習を受講しました

Readyfor 講習会 (2回・Zoom)、JANPIA ファンドレイジング研修 (Zoom)

## (5) 積極的にメディアへニュースリリース

テレビ・ラジオで延べ 30 回、新聞・ウェブニュースで延べ 44 回、報道されました。

**特別法人会員企業一覧** \*2022年1月~2023年4月・順不同

小林製薬株式会社 合同会社グローバルコーポレーション  
清水内科クリニック 住友生命保険相互会社 山梨支社  
生活協同組合パルシステム山梨 生活協同組合ユーコープ  
浄土真宗本願寺派 大正寺 ツルヤ化成工業株式会社  
東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ株式会社  
なかえこどもクリニック 富士急行株式会社  
パルシステム生活協同組合連合会 パルシステム共済生活協同組合連合会  
ヒューコムエンジニアリング株式会社 山梨スズキ販売株式会社  
山梨ダイハツ販売株式会社 山梨日野自動車株式会社  
株式会社ジインズ 医療法人田辺産婦人科 株式会社甲府大一実業  
長田組土木株式会社 株式会社太陽設計 株式会社エノモト  
株式会社タンザワホールディングス 株式会社エム・シー・エス  
株式会社テレビ山梨 株式会社オーク 株式会社内藤製作所  
株式会社オーテックエレクトロニクス 宗教法人生長の家 株式会社早野組  
株式会社オーテックメカニカル 株式会社パルライン 株式会社福島運輸  
株式会社クロスフォー 株式会社小泉中部 株式会社藤石材  
株式会社坂本建運 フォネットグループ 株式会社ササキ  
株式会社保険のアルフィー 株式会社サニカ 株式会社メディアブレイン  
株式会社サンポー 株式会社山梨中央銀行 株式会社シンク  
旭陽電気株式会社 株式会社新和運輸 公益財団法人キープ協会  
有限会社入沢工務店 住友林業株式会社住宅建築事業部 甲府支店  
有限会社総合電化小林 昭和総合警備保障株式会社 有限会社ペリー商事  
株式会社ネオシステム 有限会社南口運輸倉庫  
医療法人優心会竜王レディースクリニック ナイスパニック株式会社  
有限会社山梨検査センター 有限会社保泉商事 株式会社甲府共和電業  
オプトホーム株式会社 株式会社はくばく 株式会社サンワライフ保険  
E&E株式会社 共信冷熱株式会社 株式会社エヌディエス  
有限会社峡西シーエーテーブイ トヨタエルアンドエフ山梨株式会社  
テクト株式会社 ファスフォードテクノロジー株式会社  
有限会社ジーエヌコーポレーション 株式会社くすりのサンロード  
株式会社シャトレゼ 株式会社メイコー 株式会社システムインナカゴミ  
株式会社アースリンクイノベーション 株式会社 Toshin 株式会社藤二誠  
株式会社内藤ハウス ヒロセ電気株式会社



## 2022 年度テレビ・ラジオでの放映実績

日付	放送局	内容
2022/04/13	YBS/UTY	アンケート結果記者会見
2022/04/22	NHK 甲府	乳幼児応援プロジェクト実施
2022/04/27	NHK 甲府/UTY	ウクライナからの避難者山梨大学とNPO法人が支援
2022/04/28	FMFUJI	アンケート調査結果で公表1日300円未満の食費
2022/05	NHK	アンケート調査結果について
2022/07/14	NHK 甲府	センター建設について
2022/08/20	日本テレビ	「世界一受けたい授業」子どもの貧困
2022/08/25	NHK 甲府	8/10取材
2022/09/01	NHK 全国	「おはようっぽん」フードバンク活動
2022/09/01	テレビ朝日	「報道ステーション」物価高騰で食品寄贈減少
2022/09/16	UTY	「すごろく」物価高フードバンクにも影
2022/09/20	NHK 甲府	「かいどき」スマイルプロジェクト
2022/10/04	NHK ニュース /NHKWEB 特集	物価高が直撃 苦境のフードバンク
2022/10/12	NHK ラジオ	物価高騰
2022/10/28	NHK ラジオ	「NHK ジャーナルクロス」物価高・円安、どう乗り切る？
2022/10	YBS ニュース	深刻さ増す困窮世帯の状況
2022/12/19	NHK/YBS/UTY	山梨フードバンクセンター開所式
2022/12/27	YBS	料理関係者が食品寄贈（全日本司厨士協会寄付）
2022/01/27	NHK 甲府	全国のフードバンク団体「フードバンク山梨」視察
2023/02/07	NHK/UTY	新電力会社収益の一部をフードバンクに寄付（ヴィジョンリーパワー）
2023/03/30	UTY	ピンクリボンキャンペーンイベントでフードドライブ活動

\*他、3件の企業・団体からの食品・寄付金寄贈について報道されました。



## 2022 年度新聞・デジタルメディアでの掲載実績

日付	掲載紙	内容
2022/04/14	山梨日日新聞	食費1日300円未満32%
2022/04/15	朝日新聞	コロナ禍「食費削った」が8割
2022/04/16	毎日新聞デジタル	一日の食費「1人300円未満」が3割
2022/4/21	アットプレス	食費1日1人当たり300円未満32%という実態
2022/04/26	山梨日日新聞	キウウから山梨に避難 兄弟2人山梨大など支援
2022/04/28	山日／読売／毎日	ウクライナ避難の兄弟 官学民で支援へ
2022/05/02	朝日新聞	ウクライナ避難民県内初の受け入れ
2022/05/03	毎日新聞	子どもの学習支援 学校、家以外の「居場所」を
2022/05/04	産経新聞	一日の食事代300円未満が3割
2022/05/05	サンケイ Biz	山梨の困窮子育て世帯 食費300円未満が3割超
2022/06/11	山梨日日新聞	夏休み こども支援プロジェクト実施
2022/07/07	朝日新聞	「2022 参院選」食料寄付昨年の25%
2022/07/07	山梨日日新聞	生活困窮「教育の格差生む」
2022/07/13	山梨日日新聞	子育て世帯へ食料支援 笛吹市
2022/07/24	山梨日日新聞	フードバンク山梨 甲府で活動報告会
2022/08/12	朝日新聞	生活苦 NPO に助け求める電話多数
2022/08/12	朝日新聞	来月 スマイルプロジェクト実施
2022/09/18	山梨日日新聞	困窮学生に食料配布 物価高騰で支援
2022/10/19	山梨日日新聞	学習支援学生どう継ぐ 県内で活動100人超え
2022/10/28	山梨日日新聞	「山日と私」社会を変える力実感
2022/11/08	山梨日日新聞	冬休み こども支援プロジェクト 困窮世帯向け募る
2022/11/14	JA ドットコム	貧困対策 基本法に位置づけを
2022/11/17	山梨日日新聞	支援世帯調査 「収入10万円未満」4割超
2022/12/14	山梨日日新聞	食料支援団体援助へ 県補正340億円台
2022/12/20	山梨日日新聞	保存庫完成 生鮮食品受け入れ可能に
2023/01/14	山梨日日新聞	ひとり親「資格あれば」経済的自立への支援望む
2023/02/14	読売新聞	スマイルプロジェクト 物価高騰 困窮世帯に支援

\*他、14件の企業・団体からの食品・寄付金寄贈、1件のその他記事が掲載されました。





## (6) 助成金・補助金へのアプローチ

助成金・補助金を積極的に申請し、活動資金の確保に努めました

助成元・募集事業名称	事業名・内容
公益財団法人パブリックリソース財団 中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業(2年目)	山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業
独立行政法人福祉医療機構 令和3年度(補正予算)社会福祉振興助成事業	食の支援を契機とした、一人親家庭の総合的支援&課題解決力育成事業
山梨県 生活困窮世帯緊急食料支援事業費補助金	物価高騰やコロナ禍の長期化などによる経済的影響を受けた世帯への年末緊急食料支援
公益財団法人流通経済研究所 令和4年度フードバンク活動団体の食品受入能力向上支援事業	小笠原倉庫賃料や食品輸配送費、消耗品費、人件費
一般社団法人全国フードバンク推進協議会 フードバンク団体等に対する食料支援活動強化助成事業	夏休みの親子に楽しい思い出を届けるフードバンクこども支援プロジェクト
公益財団法人パブリックリソース財団 2022年度高山弘子基金	貧困世帯に食料を、乳幼児にミルクとオムツを届けたい

## (7) 講演会・視察

前半はオンラインで実施しました。新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いてからの後半は、予防対策を行い、三密を避け、会場での実施となりました。

### 2022年度視察・研修受け入れ実績

実施日	団体名	参加人数
5/30	フードバンク宇都宮	3
6/6	フードバンクとくしま	3
8/16	東京都板橋区公明党会派視察	10
10/25	山梨県新任職員研修	50
10月～	株式会社マイファーム R4年度農水省補助事業専門家派遣 フードバンク奈良	3
12/9	株式会社バローホールディングス	5
12/15	株式会社コロワイド	3
1/13	日立製作所	
1/27	株式会社マイファーム フードバンク先進県の山梨で視察研修	40
2/10	甲州市青少年育成推進会	40
合計		111



### 執筆・インタビュー掲載実績

日時	団体名・誌名
9/20	生活協同組合ユーコープ機関誌 mio 12月号
10/21	山梨県立巨摩高校 創立 100 周年記念誌 寄稿

### 講演・パネリスト登壇実績

日時	団体名・会議名	参加人数 (約)
9/1	国立国会図書館「生活困窮者支援としてのフードバンク活動」オンライン講義	20
9/2	甲府中央ライオンズクラブ 9 月第一例会	20
10/31	第 17 回森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山	10
11/17	山梨学院短期大学 社会人基礎力育成講座 I (齊藤事務局長)	220
11/17	中巨摩学校保健会 学習会	70
1/11	国立成育医療研究センター 必要としている子どもに食への支援を届けるための支援者連携の在り方を考える	180
1/25	山梨県青少年育成カウンセラー会	40
1/27	NPO 法人コミュニティスクール・まちデザイン 「フードバンクから見える食の格差」オンライン	30
2/22	株式会社マイファーム 全国フードバンクシンポジウム(会場参加 50 名、オンライン参加約 120 名)	170
3/1	身延町役場 第 1 層地域支え合い協議会	23
合計		783

## 4. 組織運営強化

### (1) 職員が働きやすい環境づくり

倉庫と事務所が一体となった新センター開設により、職員の業務負担が軽減され、さらに新年度に向けて賃金体系の見直しを行いました。

### (2) 人材育成の取り組み

オンラインによる研修を積極的に活用し、受講しました。

### (3) セールスフォースの活用

食品寄付者入力システムを導入することで、寄付者管理が前進しました。



倉庫スペースに事務所が隣接

### (4) 理事会運営の充実

オンラインによる出席を準備するとともに、事前に資料を送付し、参加しやすい体制を整えました。



## 5. パートナーシップ

### (1) ボランティアは、延べ 1,328 人となりました

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回の受け入れ人数を最大 10 人前後とし、検温・マスク着用・手洗いを引き続き徹底しました。コロナ禍であるにも関わらず、多くの方が作業に参加してくださいました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
活動日数	13	11	12	13	14	8	10	10	14	7	7	11	130
延人数	107	91	112	118	159	82	101	82	213	75	77	111	1,328
延活動時間	216	182	221	310	309	164	200	164	364	148	145	238	2,661

#### ①多くは HP やロコミで

2022 年度においてもコロナ禍の状況を踏まえ、ボランティア募集の告知等を行いませんでしたが、電話などでのボランティア参加の問い合わせがあり多くの方がボランティアに参加をしてくださいました。

#### ②ともに活動の「進化」に向けて

新センター移転後、毎週参加をしてくださるレギュラーボランティアの方たちと作業のやりやすさ、効率化を考えレイアウト等を変更しながら作業を行いました。

#### ③企業・団体・行政・高等学校からも

行政・民間・教育機関から 69 件を受入れました。作業は月 2 回の箱詰めや KSP、賞味期限チェックを体験いただきました。12月19日の新センター開所式時には、フードバンクこども支援プロジェクトの箱詰めに約 70 名の参加がありました。

#### ④学習支援事業へのご協力、ありがとうございました

「えんぴつひろば」の活動が終了した7月までに、のべ60名が、講師として、また運営サポートに協力くださいました。





## (2) 市民・行政・企業のネットワークの構築

日本青年会議所関東地区大会 韮崎北杜大会にブースを出展し、後日の寄付につながりました。

山梨フードバンクネットワーク活動報告会と地域フードバンク情報交換会を開催し、関係者との率直な意見交換を行いました。

また、自主的にフードドライブやスーパーとの連携を進める地域 FB 団体もありました。



7/4 日本青年会議所関東地区大会 韮崎北杜大会での活動 PR ブース



8/27 イオンモール甲府昭和でフードドライブの広報



3/30 山梨フードバンクセンターにおいて WAM 活動報告と意見交換会





## 6. 中核的フードバンクとしての活動推進



### (1) 県内各地のフードバンク団体の立ち上げと運営支援

よりそい北杜（北杜市）と NPO 法人虹の谷（甲府市）が加わり、8 団体となりました。  
地域フードバンクを会場とした食品配布を NOP、スマイルプロジェクトで行いました。

#### 地域フードバンク 8 団体紹介

名称(所在地)	特長・活動の広がり	活動の様子
NPO 法人 子どもサポート やまなし (甲府市)	学校や家庭、友達、進路等の悩みに相談対応。問題を抱えて子育てが大変になっている家庭と一緒に歩みながら支援。相談支援や同行支援、外国人への支援も充実している。	 食品配布
地域総合 子ども家庭 支援センター・ テラ (甲府市)	社会福祉法人山梨立正光生園が母体。 附属する子ども家庭支援センター・テラは、児童福祉法に基づき県内で唯一、県の認可を受けて運営。	 食品配布
協力団体 ふじざくら (富士河口湖 町)	ベーカリーを経営。独自に企業寄贈を開拓や近隣の大学への広報も実施。自家菜園の野菜も提供。ボランティア協力者もいる。専用のスタッフジャンパーやシンボルマーク付き車両も確保して活動中。	 食品配布
NPO 法人 ぐんないや - 織 syoku - (都留市)	寺院の副住職が代表。都留文科大学生と協働して、地域食堂(つるっ子食堂)、フードバンク、教育・居場所支援を実施。 つるっ子食堂は、毎回 200 人の子どもが利用。	 食品配布
特例認定 NPO 法人 富士の緑と フードサポート (富士吉田市)	2021 年から富士北麓の自然保護に加えて食料支援団体として活動開始。富士吉田市役所、忍野村役場、商工会議所、高等学校等と連携して子育て家庭(生活困窮者等)を支援。独自にフードドライブや食品配布会を開催している。大型倉庫あり。	 ボランティア
よりそい北杜 (北杜市)	個人。子育て世帯と高齢者世帯の地域コミュニティーづくり(市民農園)推進。ひとり親世帯へ自家製の米 5 kg を毎月配布。子育て世帯への野菜配布(不定期)も実施。大武川農場から定期的ほうれん草の寄贈あり。	 ほうれん草



NPO 法人 にららん♪ (韮崎市)	令和 4 年 NPO 法人認可。地域から食品を集めて配布するフードパントリーを毎週開催。「そら教室」では、大学生が小中学生に勉強を教え、弁当配布する居場所となっている。		食品配布
NPO 法人 虹の谷 (甲府市)	新規参加団体。毎月第 4 日曜に子ども食堂開催。		食品配布

### ①地域フードバンクの広がり

2022 年度は新たに 2 団体が地域フードバンクとなりました。地域フードバンク会場で NOP やスマイルプロジェクトの食品配布を行いました。運営支援として、助成金情報提供・情報交換会を開催しました。

### ②食料支援への協力

地域フードバンクが主催する食料支援に対し、食料品の提供を行ないました。

### ③食料配布イベント拠点を複数化して支援を拡充

NPO、KSP、ロッカープロジェクト等の開催時に、地域フードバンク団体での会場配布を呼びかけ、会場での配布を行いました。

配布日	プロジェクト名	地域 FB 会場	利用世帯数	備考
4/23	乳幼児応援	5 団体	167 世帯	
9/17	第 8 回つながるスマイル	8 団体	290 世帯	アンケート調査 ロッカー使用
11/18	乳幼児応援	6 団体	227 世帯	
2/11	第 9 回つながるスマイル	7 団体	452 世帯	冷蔵牛乳提供

## (2)多様な団体との連携

支援組織との連携では、地域 FB よりそい北杜の紹介で「ぱぱママキッズ甲斐」(山梨県母子寡婦連合会甲斐支部)と連携しました。同団体のライングループに支援情報を提供し、支援に繋がった事例がありました。また、初めて大明保育所(南アルプス市)と連携した支援を行いました。

12 月、山梨県と連携し、コロナ禍での物価高騰に苦しむ世帯・大学生・留学生に年末食料支援を行いました。

### (3)山梨フードバンク・ネットワーク会議の開催、参加団体の拡充及び連携の強化

山梨県内に食料支援が行き渡らせるために。県内各地で活動を始めたフードバンク団体と連携し、ノウハウと物資の提供で、その取り組みをサポートしました。

#### ①山梨フードバンクネットワーク活動報告会を開催

48人 37の企業団体等が参加しました。

■コロナ禍におけるフードバンク山梨・活動の現状、地域フードバンク活動紹介(2団体)

■新・山梨フードバンクセンターの建設と寄付募集について報告と意見交換を行いました。



地域フードバンクの活動報告

感染対策の為にオンラインで開催

#### ②地域フードバンク情報交換会を開催

8団体の活動紹介や課題・改善点、要望などの意見を交換しました。



山梨フードバンクセンターにて

#### ③行政との「フードバンクこども支援プロジェクト」連携機関会議を実施

4/26 に行政部会としてオンラインで開催しました。フードバンクこども支援プロジェクト(KSP)の支援方法の共有と意見交換を行いました。



#### ④子どもに向けたオリジナル作品の制作を進行中

見えにくい子どもの貧困の実態を広く伝え、子どもたち自身が「自分にできる何か」を考え、困難な状況にある隣人のために行動する契機を創出することを目的に、絵本を創作中。

フードバンク山梨の支援活動の実例からヒントを得たストーリーとイラストで展開。南アルプス市出身の絵本作家に制作を依頼し8月末の完成を目指しています。

対象は、高校に進学した年齢の子どもたち。巻末にはSDGsや食料安全保障に関する情報も盛り込み、教育現場で副教材としても活用されるよう準備を進めています。





## (4)山梨フードバンクセンターの設立と事務局の運営

センターは11月末に完成し、12月19日に開所式を執り行いました。事務局運営では、地域フードバンク団体との食品配布会調整や助成金情報・備品の提供を行ないました。

### ①山梨フードバンクセンター設立

新センターは、敷地面積:2,919 m<sup>2</sup>、建物面積:570 m<sup>2</sup>の規模で、食品保管能力 70 トンです。建設費は、ファンドレイジングで9,000万円を集めました。



開所式の様子

### ②設備の拡充

センター建設を機に以下の備品を整備しました。

備品名	資金	用途など
フォーク用棚 26 対	休眠預金	新センターでのパレット保管
2 坪冷蔵庫	休眠預金	
冷蔵冷凍車 1 台	休眠預金	ハイエースタイプ中古車
精米機 1 台	休眠預金	業務用、粳からの精米可能
オリコン 560 個	休眠預金	食品の保管
アスファルト舗装	休眠預金	センター前、舗装と車止め
プラーター フォークリフト 1 台	寄贈	倉庫内パレット移動



フォークリフト用の棚



2坪タイプの冷蔵庫



冷蔵・冷凍車



精米機



アスファルト舗装



食品保管用折り畳みコンテナ

## (5) 更なる食品ロス削減への貢献

詳細は、P18-23 を参照願います。  
食品関連事業者からの冷凍食品の寄贈を始めました。

①全県での家庭・職場フードドライブを実施しました。

②大口寄贈の受け入れ



③寄贈量の増加のための働きかけ

行政・企業・団体等とは 10 社と同意書を締結。延べ締結企業数が 80 社になりました。冷凍庫稼働に伴い、冷凍食品の寄贈を呼びかけました。

企業名	冷凍食品	備考
All Food Japan (株)	ピュレ、ポターージュ、ジェラート	長崎県の工場から直送
(株)シャトレーゼ	ケーキ、アイスクリーム	複数回の寄贈を継続中
わらべや日洋食品(株)	おせち用業務食材	関連企業から常温食品寄贈
(生協)パルシステム山梨	宅配用各種食品	大雪による食品ロス削減
(株)はやしや	おやき	長野県から来所
山梨県	県産精肉パック	県産冷蔵牛乳寄贈あり





## (6) 政策提言・広報

政策提言は実現できませんでしたが各活動のアンケート調査を発表し、貧困の実態を発信しました。

イベントごとに、プレスリリースやSNSで活動を広く社会に発信しました。

## (7) 人材育成、研修会の実施

コロナ禍で Zoom などを活用したオンラインでの研修が増加し、事務所にいながら効率よく受講できるようになりました。

	名称	主催	備考
10/25	山梨県新任職員研修	山梨県職員研修所	県職員 50 人への
1/27	フードバンク先進県の山梨で視察研修	マイファーム	全国のフードバンク等 20 団体 31 人
2/10	ファンドレイジング	JANPIA	(Zoom)
3/2	食支援活動をステップアップする情報交換会	フードバンクかながわ	(Zoom) 冷凍食品の寄贈について



山梨県新任職員研修：フードバンクのワークショップと食品箱詰め体験



フードバンク先進県の山梨で視察研修：新センター視察と活動紹介、メディア取材あり



## (8) フードバンク情報共有システムの開発

「寄贈品情報管理システム」を構築しました。これまで中心だった紙媒体での記録から PC での受付に変更して運用しています。

寄贈情報の入力、受付カウンターを挟んで 2 か所で操作が可能になっています。



正面受付カウンター



寄贈者が直接入力



事務所側にも専用 PC

## (9) 利用世帯へのアンケート調査実施

2022 年 9 月に開催した第 8 回つながるスマイルプロジェクト「物価高騰の今こそ、フードバンクで支えあおう」のアンケート調査を 11 月に発表しました。度重なる値上げや、電気ガス・ガソリンの高騰が生活全般に大きく影響しています。

①支援を受けた 290 世帯のうち 115 世帯が回答し、深刻な影響が明らかに  
1 人あたりの食費について、第 8 回 9 月の調査では約 4 割が 384 円/日、半年後の第 10 回 3 月の調査では約 3 割が 333 円/日で生活しており、依然として厳しい状況が続いていました。

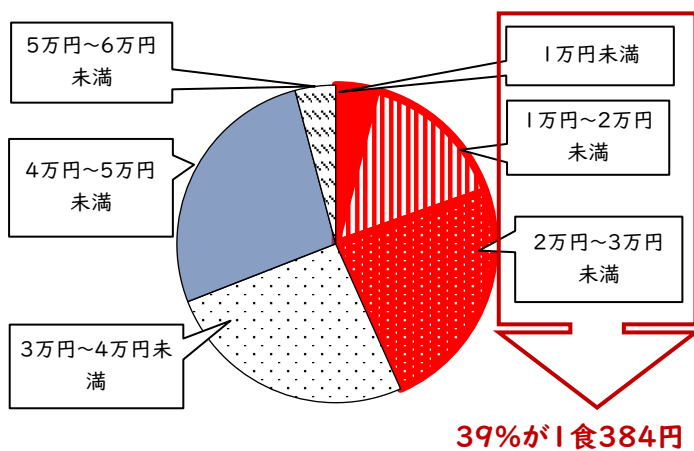
### 【調査のまとめから】

- コロナ禍に物価高騰が重なる状況では、正規雇用の仕事に就いていても経済的に困窮する場合があります
- 現在はなんとか持ちこたえている世帯であっても、今後コロナ禍や物価高騰が長期化すれば、生活が立ちゆかなくなる世帯がさらにも出現することも十分に考えられる
- 山梨県のような「車社会」では、ガソリン価格の高騰が地方の市民生活に多大な影響を及ぼし得るのであり、食費を切り詰めざるを得ない一因にもなる
- 1人あたりの食費が 384 円/日と、かなり少額でやり繰りをしている回答者が約 4 割にもものぼる。「炭水化物だけの食事が増えた」など栄養バランスを犠牲にしても食費を抑制している者もいる。





ここ 3 か月の平均で 1 か月間の食品にかかる金額

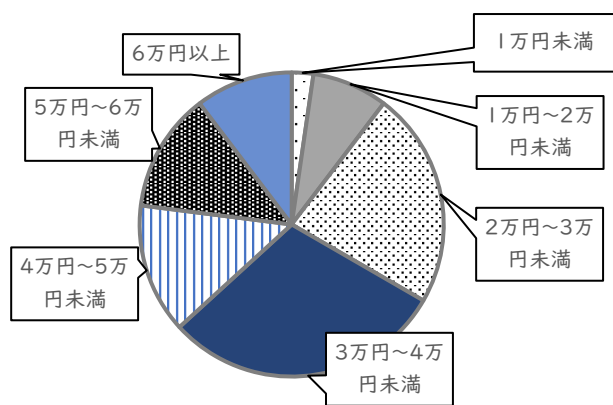


利用者の声(第8回)

- ・食べ物を買うのも値上がりしていて買うのをためらうことが増えてしまった
- ・米を使う量が減った
- ・食品は値下げ商品を見つけて購入しているが、賞味期限がその日限りだったり日持ちできない
- ・野菜の価格が高くなって買う回数が減り、野菜不足の心配が増えました

②2023年3月開催「第10回つながるスマイルプロジェクト」アンケート調査  
調査世帯数 132 回収数 116 (回収率 87.8%)

ここ 3 か月の平均で 1 か月間の食品にかかる金額



利用者の声(第10回)

- ・給料が上がらないので、食品値上げ、ガス、電気代など困っている。
- ・もともと生活が苦しい上に、物価の高騰、電気代が上がったことによりさらに生活が厳しい状況です。
- ・服とか下着がサイズアウトしているのに買ってあげられなくて小さいけど着せていることもあります。
- ・育ちざかりなので、お米や麺類、おなかが満たせるようなものは本当に嬉しいです。



## 7. 県内自治体との連携促進

### (1) 災害時の緊急支援

台風15号の影響による静岡市清水区の断水被害支援のために、中央市とともにいち早く水を届け、地元フードバンク団体により必要とする世帯へ配布していただきました。



### (2) 県内の畜産農家を支援する取り組みへの協力

山梨県農政部の6月補正予算(コロナ対策交付金)による畜産農家支援を活用して、お子さんがいる対象世帯へ肉と牛乳の支援を行うことができました。



### (3) 県下の世帯へ緊急食料支援の実施

山梨県から補助金を受け、長引くコロナ禍や物価高騰の影響を受けた世帯へ、年末に緊急食料支援を実施することができました。